

## 北通遺跡 第79地点

遺跡名	北通遺跡
よみがな	きたどおりいせき
調査地点	第79地点
主な時代	縄文時代中期、弥生時代後期末、平安時代
調査地	富士見市針ヶ谷1丁目23-1
調査面積	1,480 m <sup>2</sup>
調査期間	平成28年9月12日～12月16日
調査内容	<p><b>【確認された主な遺構】</b> 縄文時代中期の竪穴住居跡6軒 弥生時代後期の竪穴住居跡28軒 平安時代の住居跡7軒</p> <p><b>【出土した主な遺物】</b> 縄文時代中期の縄文土器、石器 弥生時代後期の壺、台付甕、土製勾玉 平安時代の土師器甕、須恵器坏、須恵器壺</p> <p><b>【概要】</b> 富士見市針ヶ谷に所在する北通遺跡は、旧石器時代から近世までの各時代にわたって遺構・遺物が発見されています。第79地点を含めてこれまでに行われた発掘調査の結果、北通遺跡は特に弥生時代の大規模な集落跡であることが判明しています。発見された遺構は、弥生時代後期から古墳時代初頭にかけての住居跡が133軒に及び、他に方形周溝墓9基が確認されています。本地点で確認された住居跡は幾重にも重なった状態で検出され、ここが集落の中心部にあたり、長きにわたって生活が営まれていたことをうかがわせています。また発見された土製の勾玉は、市内でも数点しか発見されておらず、当時においても特別なものだったと考えられます。</p>



第 78 地点調査区北側半面



第 78 地点調査区南側半面



発見された土製勾玉



土器が多数廃棄された弥生時代住居跡



弥生時代の焼失住居



平安時代住居跡